2022 年度　一般選抜中期日程／国際商学科　英語
出題の意図と解答の傾向

Ⅰ（１６０点）

英語を実際に使用する能力が身についているかを見るために、設問もすべて英語とした。

問１（２５点）

【解答例】

倒産する企業が増加し、仕事に関連したストレスが増え、あらゆる年代層の労働者の多くが、仕事の仕組みや管理の仕方に不満を述べていること。

【解答の傾向】

This は、１番目の段落と対比となっている、直前の３文の内容を指している。

減点となった解答には、“the way they [workers] are managed” を正しく理解できていないものが多かった。「雇用形態」「経営（される）方法」などと訳したものがあった。「管理されるような働き方」と訳した解答もあったが、「労働者の管理」 は、「管理社会」の意味の「管理」とは一致しない。また、“manage to do” と誤解したためか、「なんとかして取り組んだ方法」との誤答もあった。

問２（３０点）

【解答例】

秩序が生産性の必要条件であるという想定は、無秩序が組織的な生産性にとって有害に違いないという考えも育んでいる。

【解答の傾向】

This の内容を明らかにした上で日本語訳をする問題だが、This がその直前の文章を差すことはほとんどの受験者が理解できていた。assumption を断定的な意味を持つ日本語で訳出する傾向がみられたが、段落の始まりに new research とあることを考慮すると、それに合わせた訳出をすべきである。主語以外の部分については、問題文の内容を把握できておらず、order を「注文、命令」等と訳し、disorder の訳出が曖昧になる解答が多く見られた。また、must は文脈から「～に違いない」にすべきだが、それができていない解答も多少見られた。

問３（１５点）

【解答】

c （to engage as one organic group）

【解答の傾向】

正答率はかなり低かった。最も多い間違いは b だったが、それは文全体の構造を考えず直前の involved だけを見て in で始まるものを選んだことが要因と考えられる。次に多い誤答は d だった。ここは the best approach の補語が to create と (to) enable であり、さらに enable + O + to V という形をとるべき箇所。よって to を持つ c か d に絞られるが、approach の一つ目の補語の内容が「秩序(order)」を「重んじる(respect)」事であり、それと d の内容は相反し、一方で c は devoid of を含むことで一つ目の補語と同等の内容になるので、正解は c とすべきである。

問４（２０点）

【解答例】

事業のあらゆる面で労働者の生産性が向上し、この方法は、はじめはかなり成功することがわかった。

【解答の傾向】

全体的な文意を理解できた解答が多かった。

主文の内容は半数以上の受験生が把握できていたが。主文の文型(“prove to be ～”）をうまく訳しきれない解答もあった。また、副詞 highly（非常に、かなり）が successful を修飾し、「かなり成功する」と解するのが正しいが、「高い確率」「連続性」等と誤答したものもあった。

“with A in B in C”の部分に関しては、「C の B が A であることで」「C の B が A であるため」「C の B が A であるとともに」等と、主文の付帯状況としてうまく訳出できていた解答が多かった。

また、日本でもしばしば用いられる approach や business を訳出していなかったり、誤訳したりしている解答も見られた。

問５（２０点）

【解答例】

これもまた、社内の異なる部門間の障壁を取り払い、仮想協調や柔軟な働き方を推奨するものである。

【解答の傾向】

上記文章の他動詞 involve(s)の目的節は、“breaking down the barriers ～ company”と“encouraging virtual ～ working”の２つである。その２つは and でつなげられている。しかし、この and を“between A and B”の and と解釈し、誤訳しているケースが非常に多く見られた。上記文章での between は、“between A and B”という形ではなく、“between different parts of a company”（会社の様々な部署の間）という形になっている。

また“between different parts of a company”を「異なる（業種の）企業間」と解釈する誤訳も目立った。“a company”であるから、「1つの会社の中の様々な部署」が正しい意味である。

冒頭のAgainを自動的に「再び」、「さらに」、「繰り返し」というような日本語に置き換える傾向が強い。このAgainは、General Electric社もまた、Oticon社が導入した組織改革と類似した改革を導入したことを示している。

問６（１５点）

【解答】

ア．far　　イ．on [upon]　　ウ．if [when]

【解答の傾向】

ア、ウの正答率が低かった。アとイは、“so far”（これまで）、“have effect(s) on ～”（～に影響がある）のフレーズを知っていれば解答できただろう。ウは、“if (it is) overused”の副詞節について、主節と主語が同じなため、「主語+be動詞」が省略されている。

問７（２０点）

【解答】

Ａ．helps　　Ｂ．increased　　Ｃ．reached　　Ｄ．fear

【解答の傾向】

Ａはhelpとの誤答が多かった。industryは、産業・工業一般の意味のときは不可算名詞だが、特定部門の「～業」の意味の場合には可算名詞であるため、helpsが正答となる。

Ｃはswallowedとの誤答が多かった。「解決に達する（reach a solution)」という表現を用い、“new solutions that ～ would never be reached.”が正解となる。

この中では、Ｂは正答率が高かった。

問８（１５点）

【解答】

ｅ（To increase productivity, a balance between order and disorder is important, but we have not found the right balance yet)

【解答の傾向】

正答率は高かった。誤答はｂとｄが多かった。ｂは本文で述べられている内容とは合わない。ｄは本文にあるGoogleと言う語が入っているが、その後の内容が逆のことを述べている。

II （４０点）

【解答例】

ア．have	イ．done	ウ．rather	エ．work
オ．would[could/might]	カ．prioritize	キ．is	ク．encouraged

【解答の傾向】

２つの空所に適切な単語を記入し、２人の会話文を完成させる問題である。空所の１つは、単語リストから適切な動詞を選択し、必要な場合は活用して記入する。新しい形式の問題であり、問題の条件をしっかりと理解して回答してもらうため、設問の説明部分は日本語で記載した。

正解率は全体的に低かった。動詞の選択が間違っているものが半分近くあった。また、正しい動詞を選んでも、適切な活用がされてなかった誤答が多かった。

１問目は、仮定法過去完了「助動詞の過去形＋have＋過去分詞」の形にする。have do や had done など、活用が間違っている誤答があった。

２問目は、“would rather do A than do B “の構文を用いる。than から rather が入ると解せなかった解答では、“would like to ～”と考えたためか、“like work” や“like working”と解答したものがみられた。また、ウに“like to”、エに work と誤答したものが少なからずみられた。

３問目は、仮定法過去の「助動詞の過去形＋動詞の原形」の形にする。動詞は prioritize のほか、do も正解と採点した。オを will と解答したもの、“would prioritized”と解答したものがあった。

４問目は、「意見を述べるように奨励される」という意味になるように、〈encourage＋0＋to do〉「0 に～するよう励ます」の受動形を用いる。キを are と解答したものや、“is encourage”と原型のままで解答したものがみられた。